

環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	エコアイランド鹿追「地球に優しいまちづくり」	
提案団体	北海道河東郡 鹿追町	人口： 5,723 人
担当者名及び連絡先	担当者の所属 町民課 氏 名 小林 潤 : 0156 - 66 - 4031 / fax0156 - 66 - 1020 / seisaku@town.shikaoi.hokkaido.jp	

1 全体構想

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

鹿追町は、十勝平野の北西端大雪山の東山麓に位置（資料1）し、総面積 404.69k m²で、うち農地面積が 115.16 k m²（全体の 28%）、森林面積が 209.2k m²（全体の 52%）を占めています。大雪山国立公園唯一の自然湖「然別湖」を有し、年間 60 万人～70 万人の観光客が訪れている、農業と観光を基幹産業とする純農村地帯です。

鹿追町は昭和 40 年代から国営畑総事業に取り組み、地力豊かな営農で北海道を代表する農業の町として、また、風光明媚な自然空間を生かした「自然と調和した循環型生活環境づくり」の取り組みにより、安心安全のまちづくりが住民に定着しています。

’00 年には鹿追町をあげて環境美化宣言を行い、まちぐるみで環境問題を考え、’04 年には地球環境を見つめ、鹿追町の環境について考え実践するため、青少年から高齢者までのあらゆる年代層による「鹿追町の環境についての基本的なきまり条例」の制定がなされ、以降は各家庭で実践されている「花と芝生のまちづくり」を始め、クリーンなまちづくり実践に向けた取り組みは、2005 年カナダで開催された花のまちづくりコンクール「コミュニティイン プルーム」において5つ星の栄誉に輝くなど、世界でも認められる花のまちづくりが進められてきています。

温暖化防止への観点から、最終処分場を 2004 年度よりごみ焼却から埋め立てに転じ、生ごみは住民による自家堆肥化と施設での集中堆肥化、さらにはバイオガスプラントの建設により、効率的なエネルギーサイクルで循環型農業の実現など各種事業（資料2）に取り組んでいます。

互いに切磋琢磨しながらの長年の地道な取り組みが、他に範たる環境にやさしい町づくりを進める鹿追町の住民に深く浸透しており、今後はさらに鹿追町を訪れる多くのお客様に、安心安全の取り組みを実感していただけるよう、日常の環境体験観光地としてのホスピタリティを醸成していきます。

環境美化宣言のまち鹿追町は、2050 年に向けて次の点について取り組みを進めます。

- 1 子どもから高齢者まで、6000 住民が一丸となって美しい故郷を作り出す、環境に優しい花と芝生のまちづくりを進めます。
- 2 バイオガスプラントの効率的稼働により環境に優しい循環型農業の確立と、農業分野における温室効果ガスの大幅削減を実現することにより、国内の循環型農業への波及を目指します。また、生産されるエネルギーの広域的活用方策について検討します。
- 3 新エネルギーの開発による CO₂ 削減を図ります。
- 4 環境に優しい花のまち鹿追を訪れる人々に安心安全のまちの癒しの時間と空間を提供します。

2008 年 4 月、北海道は洞爺湖サミットの開催を踏まえ、北海道発の環境メッセージとして「北海道環境宣言」を発信しましたが、鹿追町は北海道の一自治体として「北海道らしい環境に配慮したライフスタイルの実践」に向けて、北海道と共に歩むべく先進の取り組みにチャレンジするものです。

1-2 現状分析		
1-2- 温室効果ガスの排出実態等	<p>鹿追町の二酸化炭素の排出量（03年度北海道環境生活部調査 全北海道の平均値と比較）</p> <p>二酸化炭素総排出量 14.99 万トン</p> <p>内訳：産業部門 5.87 万トン</p> <p>運輸部門 3.74 万トン</p> <p>家庭部門 3.40 万トン</p> <p>業務部門 1.98 万トン</p> <p>森林吸収量（別推計）4.7 万トン 差し引き 10.29 万トン</p> <p>自然豊かな鹿追町は、森林資源の二酸化炭素吸収に恵まれ、産業・運輸・家庭・業務部門のトータル二酸化炭素排出量と差し引き、10.29 万トンの排出量となっている。</p> <p>一般家庭における取り組みは、「環境美化宣言」（資料3）・「鹿追町の環境についての基本的なきまり条例」・行動指針（資料5）に基づく、環境委員会の主体的な活動により、2003年町民一人当たりごみ排出量が1.220gが2007年には584g（資料9）までに減少し、全国・全道の数値（資料14）との減少差も際立ちリサイクル・分別・節約の意識が非常に高い。</p> <p>今後に向けては、一体となりつつある町民の意識を更に強め、地域ごとの推進体制を構築し、町全体の実践を促進する。</p>	
1-2- 関係する既存の行政計画の評価	計画の名称及び策定期	評価
	鹿追町環境美化宣言(00.9)資料3	大自然の恵みに感謝し、美しい故郷を守り育て、自然環境を後世に引き継いでいくことが謳われ、この年を境に町の環境に対する活動が全町的な取り組みとなっている。
	第5期鹿追町総合計画(01~10)資料4	住民組織の活動を推進し、一般廃棄物の削減、資源の重要性を認識しリサイクルの推進等、各般に亘る取り組みを求めている。 基幹産業である農業に関しては、安心・安全消費者の視点に立った農畜産物の生産のため、関係団体との密接な連携により、循環型農業の確立を目指す計画となっている。
	鹿追町の環境についての基本的なきまり条例及び行動指針(04.12策定)資料5	住民による条例策定委員会が、地球規模の環境保全の必要性を認識し、住民・事業者・行政の責務を明らかにし、それぞれの日常の取り組みが進められるよう、行動指針に表されている。 住民は日常生活でリサイクル活動、自然を育てる活動の推進、事業者はバイオガスプラント等への積極的参加、行政は省エネ推進・住民活動意識の醸成推進が各々明記されており、今後さらに具体策が検討される。
	バイオマスタウン構想(06.2)資料6	環境を守り育てていくため、堆肥化センター・バイオガスプラントを建設し、堆肥・液肥の農地適正還元をし、発生するメタンガスを発電や温水エネルギーとして利用しており、さらに新たなエネルギー効率の高い活用方策を研究している。

鹿追町エコオフィスプラン (08.3) 資料7		2008 年度より役場自体の取り組みとして策定され、町内の先導的立場として徹底したエコ推進を行うよう示され、現在各種取り組み(資料11・12)が行われている。
2008 年度地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業実施計画 (08.6) 資料8		町内に賦存する豊かな資源を活用した新エネルギー導入や町民への普及啓発に係る基本計画等の策定を目指している。(今年度調査し、2009 年度より実施予定) 新エネルギー種別： バイオマス熱利用、バイオマス燃料製造、バイオマス発電、太陽光発電、太陽熱発電、水力発電、地熱発電、温泉熱利用

1-3 削減目標等

1-3-削減目標	鹿追町は00 年の「環境美化宣言」を境に、徹底した環境保全とエコ活動の推進をしており、今後さらに住民のエコ意識の高揚と基幹産業への新エネルギー等の導入により、町ぐるみの取り組みを促進する。		
	2003 年	2025 年削減目標 (31.3%)	2050 年削減目標 (50%)
	二酸化炭素総排出量	14.99 万トン	10.29 万トン
	内訳：産業部門	5.87 万トン	2.15 万トン
	運輸部門	3.74 万トン	3.37 万トン
	家庭部門	3.40 万トン	2.99 万トン
	業務部門	1.98 万トン	1.78 万トン
	森林吸収量	4.7 万トン	4.7 万トン
	差し引き	10.29 万トン	5.59 万トン
	’25 年までの二酸化炭素排出量の削減目標は、バイオガスプラント等の充実による循環型農業の促進・バイオガス燃料等新エネルギーの導入促進と合わせた住民のエコ生活の取り組みにより、2003 年度比 31.3%削減とする。		
	’50 年までの二酸化炭素排出量の削減目標を、循環型農業の普及促進により 2003 年度比 50%削減とする。		

<p>1-3- 削減目標の 達成につい ての考え方</p>	<p>鹿追町の2003年の二酸化炭素排出実態は、14.99万トンです。 鹿追町では2000年からの環境美化宣言を境に住民の環境に対する意識の高揚によって、生ごみの自家堆肥化等により、推計ですが二酸化炭素の排出は徐々に減少し、2003年の数値となっている。さらに2006年度に国内でも先導的な事業としてスタートしたバイオガスプラント等の循環型農業の促進により大幅な削減効果(資料10)を得ており、現状の数値から削減目標達成のためには、</p> <p>住民の日常生活の徹底したリサイクル・資源分別・節約と、エコ家電普及の徹底によりCO₂排出量削減などの生活を推進する。</p> <p>バイオガスプラントの糞尿処理によるCO₂の抑制</p> <p>バイオガスプラントの発電によるエネルギーの創出と安定した電力買取の制度確立</p> <p>バイオガス燃焼装置の普及など、新エネルギーの活用などに取り組む。</p> <p>これらの取り組みは、家畜の多頭飼育を行っている本町以外の地域での糞尿の処理に関する新エネルギーの導入と循環型農業促進により、日本全国の二酸化炭素排出量は大幅な削減効果が得られるものと考える。</p>	
	<p>取組み方針</p> <p>一般住民の日常生活の徹底したリサイクル・資源分別・節約などの生活推進徹底、エコ家電普及等によりCO₂排出量の削減を目指す。 (資料13)</p>	<p>削減の程度及びその見込みの根拠</p> <p>ごみ分別の徹底・資源ごみ・生ごみ・埋立ごみ区分けの徹底と買い替え時のエコ家電普及により、町民一人当たり18%のCO₂削減。 全事業所のCO₂の30%削減</p>
	<p>バイオガスプラントの糞尿処理によるCO₂の抑制</p>	<p>2008年度バイオガスプラントにおけるCO₂削減量(H15環境省ガイドラインより推計)年間平均1282頭の乳牛分CO₂約2066トンであり、他地域への施設新設により全飼養頭数3分の2約13000頭分の糞尿処理を見込む</p>
	<p>バイオガスプラントの発電によるエネルギーの創出と安定した電力買取の制度の確立</p>	<p>2008年度は既存プラントの発電によるエネルギーのCO₂換算(資料10CO₂排出係数より推計)約814トンを見込む。</p>
	<p>バイオガス燃料装置等新エネルギーの増産活用 (資料15)</p>	<p>バイオガス燃料装置の公共施設及び家庭への普及により、化石燃料の削減を図る。(町内美蔓地区バイオ施設の建設により3000頭分の糞尿処理ガス0.48万トンの活用を図る)</p>

	町内にある民有林2,947ha、国有林17,973ヘクタールの森林機能を高めるため、適正な育林管理と計画的な植林を推進する。地域縦断並木道の設置、子供を対象とした森林フォーラムを開催する。	2ha/年×2500本=5000/年の植樹により、適正更新を図る。
1-3- フォローアップの方法	<p>住民活動の普及状況については、行政区内の環境委員との連携により、日常生活調査により把握し、年次毎の目標の見直しと、更なる普及に努めるものとする。</p> <p>バイオガスプラントの発電によるエネルギー創出については、自家用としての活用と売電による活用が進みつつあり、今後さらに充実した活用方策を検討する。</p> <p>糞尿処理については現在のバイオガスプラント施設が6割程度の利用率であることから、10割利用に向けて年次毎の見直しを行う。また、</p>	
1-4 地域の活力の創出等		
<p>鹿追町では町内会毎に環境委員が設置されているが、2000年の環境美化宣言以来、それまで以上に住民活動の推進の大きな力となっている。地域活動は一朝一夕で育つものではなく、地域ごとのリーダー養成と日常での地道な継続した活動こそが必要なものです。</p> <p>これまでに築かれてきた環境委員の環境に関する活動のエネルギーを点と点から線に繋ぎ、さらに結集することで面に紡いで行くことで、環境に対する住民の意識はより質の高いものに向上させ得るものです。</p> <p>一方で鹿追町では、2003年度より「花と芝生のまちづくり」を進めている。</p> <p>これも、環境美化宣言を具現化する事業の一つで、環境に配慮した町並み景観を住民の日常の活動から作り上げていこうとするものです。</p> <p>花は、その存在そのものが人々の心に癒しと安らぎを与えてくれるもので、花が増えることを嫌う人は皆無に等しい。花と芝生のまちづくりの普及は最初は一握りの熱心な協力者のリードで始まり、瞬く間に町全体に定着し、7年間の歳月の中で北海道を代表する花の町なみが出現した。このことは、それまで自宅の近辺が草に覆われていても気にならなかった住民達が、周囲の環境に気がつき美化の動きに繋がっていったもの。</p> <p>これらのことから、人間の美に対する共感を呼び覚ますことは、環境に関する活動の活発化に留まるものではなく、あらゆる生活の向上心に繋がるものだと言っても過言ではない。</p> <p>花に始まり、環境全体への活動に広がりを見せた環境委員の存在を中心として活力の創出を図るものであります。</p> <p>加えて、2008年より北海道開発局の支援により小規模のプラント設置を計画しており、狭い国土の我が国の中小農業に欠くことのできない個別型の小規模のプラントの確立によりバイオガス燃料の公共施設や家庭への普及を進め、これらの取り組みが国内全体に循環型農業として波及していくことが期待される。</p> <p>また、森林の機能を高めることは単にCO₂の削減のみならず、保水機能・景観・木質資源の活用など、地域貢献度は大きい。</p>		

必ず改ページ

2 取組内容 (取組内容の整理にあたっては「1 - 3 - 削減目標の達成についての考え方」に記載された取組内容の整理の枠組みを基礎とした柱に沿って取組を分類すること。)

2- 1 地域構造の変革に関する事項

2- 1- 取組方針

一般住民の日常生活のリサイクル・資源分別・節約などの生活推進徹底により、CO2 排出量の削減を目指す。
 町内全区域内で選ばれている環境委員の活動により、エコ環境を考えた生活実践発表・リサイクル・分別回収を実践する。
 エコな生活環境の実践を町ぐるみの活動として展開
 町有リサイクル施設(ひまわりセンター)を中心として日常で使わなくなった日用品の再利用の推進
 コンポストの普及 生ごみは家庭の庭で自家処理を推奨。庭の無い家庭は堆肥化センターで回収活用を図る。

2-1- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
町内環境委員によるエコ環境を考えた生活実践発表実施 環境委員を通じて随時実践発表事例を募集 エコ活動鹿追バージョン事例として広く公表 環境家計簿等の実践モデル地区を指定し、家庭の実態把握と町全体への広がりを推進する。	環境委員会 09～13	町ぐるみの活動のために、定期的な役員会の開催を行う。
町有リサイクル施設(ひまわりセンター)を中心として日常で使わなくなった日用品の再利用推進の実施 定期的な再利用品の回収と、町民個々の持込により再利用の展示・交換の実施 資源分別...「分ければ資源」を合言葉に、新聞紙・ダンボール・裁断紙・プラ・ペットボトル・缶・ビン・鉄・など12種類の分別回収を徹底し、埋立を最小限にとどめ、埋立処分場の延命を図る。 観光客の持ち込むごみの分別受け入れ方策を推進する。	環境委員会 09～13	町ぐるみの活動のために、定期的な役員会の開催を行う。
コンポストの普及 生ごみの自家処理を進めるためコンポストの購入助成し、自家処理で出来た土で家庭菜園を楽しむ家庭を増加させる。 自家処理できない家庭の生ごみは堆肥化センターに回収し堆肥として活用を図る。	環境委員会 09～13	町ぐるみの活動のために、定期的な役員会の開催を行う。
エコ家電普及(町内家電業者と連携し相談コーナー設置等により)により、事業所及び一般家庭でのCO2の排出量の削減を図る。	環境委員会 09～13	町ぐるみの活動のために、定期的な役員会の開催を行う。

2-1- 課題

分別の種類が地域ごとに違うため、都会等他地域からの転入者の理解が得にくい。
 常に町民の分別への意識向上対策と、都道府県単位で統一した分別基準を設けることが必要。
 観光客の持ち込む不分別ごみ、不法投棄対策が必要。
 家電製品は高価なものも多く、一朝一夕には普及が進まないことも予想され、環境に関する取り組みとしての支援策も必要と思われる。

2-2 . バイオガスプラントの糞尿処理による co2 の抑制

2-2- 取組方針

鹿追町バイオマスタウン構想（資料6）に基づき、地域のバイオマス利活用を図る。

2007 年度から本稼働が開始された集中処理方式のバイオガスプラント（鹿追町環境保全センター 紙料 2）では、家畜排せ物、下水道汚泥等、廃棄物系バイオマスの利活用を主体とし、家庭系生ごみ処理も併せて行い、バイオマス由来の堆肥、液肥、消化液の圃場施用の適正化をはかり、土壌の理化学性の改善・化学肥料の節減が進められている。

今後に向けて個別型の小規模のバイオガスプラントが普及していくための施設設置（北海道開発局支援）を基にして国内農業の変革への試金石になるよう、研究を進めていく。

2-2- 5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
鹿追町環境保全センターにおいては、現在の稼働率が 60%であり年次的にフル稼働への整備を進める。 プラントから発生する消化液、堆肥等の計画的農地への還元。	バイオガスプラント利用組合	年次的に稼働率の向上と共に、co2 削減を検証する。
新しい個別型の小規模バイオガスプラントの設置により、畜産農家へのプラント普及を促進する。	北海道開発局	2008co2 削減量の調査により事業効果検証

2-2- 課題

集中処理式プラントならびに個別型の小規模プラントの建設費や維持費を賄うまでの経済的効果を得るためには、どのようにコストダウンを図るべきか、検討が必要。

2-3 . バイオガスプラントの発電によるエネルギーの創出に関する事項		
2-3- 取組方針		
プラントから発生する電気エネルギーの効率的活用を進める。		
2-3- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
プラントから発生する電気エネルギーについて、公共施設等での有効活用を進める。	バイオガスプラント利用組合	官民一体となった住民会議により、随時検証する。
2-3- 課題		
<p>初期段階での負担が大きいため、一定の支援が必要。</p> <p>個別型のプラントが仮に全国に普及するためには、発生する電力の買取価格を高く設定するなど、国を挙げての対策が必要と考えます。</p> <p>このことは、狭い国土の我が国においては、安心安全の食糧の自給率を高めることが重要であり、限られた農地での多頭飼育には欠かせないバイオガスプラントによる CO_2 削減と発生する電力について、経済的にメリットのある価格制度が求められるものです。</p>		

2-4 . バイオガス燃焼装置の設置による新エネルギー創出に関する事項		
2-4- 取組方針		
プラントから発生するガスを事業用・家庭用の燃料としての活用を促進する。		
2-4- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
個別プラントから発生するガスの保存・移動・燃料としての活用を促進する	バイオガスプラント利用組合	官民一体となった住民会議により、随時検証する。
2-4- 課題		
プラントから発生する多量のガスは、事業用・家庭用燃料として活用が可能と思われるが、移動用の器具等、具体策の検討が必要。		

2-5 . 森林資源の有効活用に関する事項		
2-5- 取組方針		
計画的な植林や適正な育林管理、更には森林教育を行う		
2-5- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
町内地域縦断並木道の設置	町・行政区	官民一体となった住民会議により、随時検証する。
森林フォーラムの実施	町・行政区	
2-5- 課題		
植林や並木道の設置は可能だが、これを維持し管理する後継者の育成が必要		

必ず改ページ

3. 平成 20 年度中に行う事業の内容	
取組の内容	主体・時期
平成 20 年度鹿追町地域エネルギービジョン策定等事業 町内に賦存する豊かな資源を活用した新エネルギー導入や町民への普及啓発に係る基本計画や基本的な方向、重点プロジェクト、実行プログラム等を策定する。	新エネルギービジョン 策定委員会 2008.6～2009.2
町民自主活動促進プラン策定事業 ・住民の日常生活におけるリサイクル・資源分別・節約などの自主活動促進に向けたプラン策定。	エコアイランド鹿追町 町民会議 2008.10
個別バイオガスプラントの設置による糞尿処理事業 大規模バイオガスプラントやこれから建設予定の小型のバイオガスプラントから発生するガスの活用、発電によるエネルギーの創出と活用の検討	北海道開発局 利用組合
4. 取組体制等	
行政機関内の連携体制	エコアイランド鹿追町推進会議 町長を会長とする役場全課長で組織する推進会議を中心に連携を図る
地域住民等との連携体制	エコアイランド鹿追町町民会議を立ち上げ、全町的な連携体制の構築 町内NPO、有識者、関係団体の代表者等による組織
大学、地元企業等の知的資源の活用	2 - 3 - プラントから発生する消化液、堆肥等の計画的農地への還元等の実施について、道内大学・エネルギー関係団体等の知的資源の提供を受ける 2 - 4 - プラントから発生する電気エネルギー及び発生するガスの保存・移動・燃料としての活用等について道内大学・北海道電力等の知的資源の活用を受ける。

※ 5 年以内に具体化する予定の取組については、その実施箇所を一覧できる地図を添付すること

※必要に応じて適宜、行や欄の追加、注記・例示の削除を行ってよいが、様式1、2の全体の枚数は10枚程度とすること。また、様式に入力する文字は10.5ポイント以上とすること。

鹿追町環境モデル都市提案書(様式2)

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

エコアイランド鹿追「地球に優しいまちづくり」

子どもから高齢者まで、6,000住民が一丸となって美しい故郷を作り出す、環境に優しい花と芝生のまちづくりを進めます。

バイオガスの効率的稼働により環境に優しい循環型農業の確立と、農業分野における二酸化炭素(CO2)の大幅削減を実現することにより、国内の循環型農業への波及を目指します。また、生産されるエネルギーの広域的活用方策について検討します。

新エネルギーの開発によるCO2削減を図ります。

環境に優しい花のまち鹿追を訪れる人々に安心安全のまちの癒しの時間と空間を提供します。

1-2 現状分析

鹿追町のCO2排出量

(03年度北海道環境生活部調査 全北海道の平均値と比較)

鹿追町のCO2総排出量は14.99万tでありその内訳は、産業部門5.87万t、運輸部門3.74万t、家庭部門3.40万t、業務部門1.98万tである。

森林(21,659ha)のCO2吸収量は4.7万tで、差し引き10.29万tの排出量となり、総排出量の3割強が計画植林などによる豊かな森林資源により吸収されている。

大規模の酪農業におけるCO2排出削減は環境立国日本の国家的な課題である。このことから現在進めているバイオガスプラント等の循環型農業の積極的推進が緊要である。一般家庭における取り組みは、「環境美化宣言」「鹿追町の環境についての基本的なきまり条例」・行動指針に基づく、環境委員会の主体的な活動により、2003年町民一人当たりごみ排出量が5割以上(584gにまで)減少し、リサイクル・分別・節約の意識の高さが際立っている。今後、町民の意識を更に強め、地域ごとの推進体制を構築し、町全体の実践を促進する。

1-4 地域の活力の創出等

町内民間組織の一層の活動促進

これまでに築かれてきた環境委員の活動のエネルギーを点と点から線に繋ぎ、さらに結集し面に紡いで行くことで、環境に対する住民の意識がより質の高いものに向上することを旨とし、このことにより全住民・全産業への低炭素社会実現への活動の広がりを。

花と芝生の町づくり推進

花と芝生の町づくりは環境美化宣言を具現化する活動で、7年間の歳月の中で、住民の輪を作り美しい町の創出と人間関係を生み出してきたもので、その活動と花の環境を見学に来る多くの客が町を訪れている。今後も町の活性化とあらゆる生活の向上心にもつながるものとして、さらに推進します。

バイオガス利活用の積極的推進

自然との共生を目指し、バイオガスプラントの普及により糞尿処理する大規模個別施設の稼働を進め、バイオガスの活用普及・売電制度の確立など新しいエネルギーの創出を推進する。

狭い国土における農業のあり方を見つめなおし、地球に優しい安心安全の循環型農業を実践していくことで強い信頼の地域ブランドの確立が期待されます。

1-3 削減目標等

住民のエコ意識の高揚と基幹産業への新エネルギー等の導入により、以下の目標とする。

削減目標	2003年	2025年(31.3%)	2050年(50%)
CO2総排出量	14.99万t	10.29万t	7.5万t
内訳: 産業部門	5.87 "	2.15 "	1.45 "
運輸部門	3.74 "	3.37 "	1.87 "
家庭部門	3.40 "	2.99 "	2.79 "
業務部門	1.98 "	1.78 "	1.39 "
森林吸収量	4.7 "	4.7 "	4.7 "
差し引き	10.29 "	5.59 "	2.8 "

25年までのCO2排出量の削減目標は、バイオガスプラント等の充実による循環型農業の促進・バイオガス燃料等新エネルギーの導入促進と合わせた住民のエコ生活の取り組み・他事業所の削減活動の徹底により、現状の31.3%削減とする。

50年までのCO2排出量の削減目標を、循環型農業の普及促進により現状の50%削減とする。

住民の日常生活の徹底したリサイクル・資源分別・節約と、エコ家電普及の徹底によりCO2排出量削減などの生活を推進する。

バイオガスの糞尿処理によるCO2の抑制

バイオガスの発電によるエネルギーの創出と安定した電力買取の制度確立

バイオガス燃焼装置の普及など、新エネルギーの活用などに取り組む。

エコアイランド鹿追「地球に優しいまちづくり」

鹿追町の環境についての基本的な決まり条例

健全で自然の恵み豊かな環境づくり

環境基本法
循環型社会形成
推進基本法

鹿追町環境美化宣言
第5期鹿追町総合計画

事業主

行政

住民

環境モデル都市:CO₂排出 50%削減を目指して

産業部門 75%削減

- バイオガスプラント糞尿処理
- バイオガス燃料活用
- バイオガス発電
- 森林の適正植林・育成等

運輸部門 50%削減

- エコカー導入促進
- アイドリングストップ
- 配送他社との連携等

業務部門 30%削減

バイオスタウン構想

新エネルギービジョン
(バイオ・太陽・水・地熱・温泉等)

農地・水・環境保全活動

エコオフィスプラン 30%削減

- エコアイランド推進会議

家庭部門 18%削減

- 環境家計簿の実践
- エコ生活の実践(エコ家電購入等)
- 花と芝生の生活実践
- 3R運動の実践(レジ袋等)
- 自然を育てる(植林等)活動の実践
- 森林フォーラムの開催等
- 青少年の育成

- 環境学習の推進
- クリーン校外活動推進
- 山・川の観察会実施
- ボランティア活動の実施

推進組織

大学等知的資源

エコアイランド鹿追町民会議

(クリーンな町づくり)

花と芝生の町づくり推進協議会

環境委員会

- バイオガスプラント「環境保全センター」の充実
- JA肥料配合施設の充実
- 美蔓地区小型バイオ施設の新設

- 一般廃棄物最終処分場
- リサイクル施設「ひまわりセンター」
- 生ごみ堆肥化施設